

3 学期終業式あいさつ

話をする前に、3月16日に福島県沖を震源とする地震で被災されました方にお見舞い申し上げます。また、世界的には、2月24日から今も続くロシア軍によるウクライナ侵攻により多くの方が犠牲になっています。ご冥福を祈ると共に、一刻も早い終戦を心から願っています。

日本で初めて新型コロナウイルスの感染が確認されてから今年で3年目を迎えます。今年に入り、島根県でも初めてまん延防止等特別措置が実施されました。それにより、3学期に計画していたインターンシップなど学校行事が中止になったり、福祉の県の発表会や総合学科の県の研究発表会が書面審査やリモートによる発表に変更されたり大きな影響がありました。こうした中、感染状況がより悪化すれば今後、リモート授業等の対応が必要となります。皆さんも有事に備えて準備をお願いします。

さて、2月に開催された北京オリンピックでは金メダル3、銀メダル6、銅メダル9と冬季オリンピックでは最多のメダルを獲得し、選手達の活躍やいくつものドラマが報道され目が離せない大会となりました。皆さんはどの競技や場面が印象に残っていますか。

私は、銀メダルを獲得したカーリング女子のロコ・ソラーレの戦いぶりが強く印象に残りました。前回のピョンチャンオリンピックでも銅メダル獲得とともに「そだねー」の相槌の言葉が話題となりましたが、今大会で多く聞かれた言葉が「ないっすー」の声でした。また、1次リーグでアメリカに勝利した試合では、ねらいとは反対方向にぶつけてしまうミスショットが出た際に、すぐに「これはこれで新しい技！」と笑いながらはしゃぐ様子も印象的でした。試合中常にポジティブな言葉をかけあい落ち込みそうになった時もチーム全員で乗り越えて、最後まで勝ちを信じた結果、手にした銀メダルはまさに感動的でした。

また、スキージャンプ混合団体で、高梨沙羅選手の1回目のジャンプがスーツ規定違反によって失格とジャッジされましたが、諦めることなくチーム一丸となって必死の追い上げを見せて、メダルは惜しくもがしましたが、4位に入賞しました。チームの強い絆を感じました。さらに涙に暮れる高梨選手に対して、国内外から励ましのメッセージが殺到したこともとても印象的でした。

そこで私達も日頃からポジティブな考え方で周りの雰囲気明るくし、苦しんでいる者がいれば、励まし、絆を更に強くしてける仲間作りができれば素敵だなと感じました。

もう一つ、年度末にあたって皆さんにお話ししておきます。

【提示「今〇ら」】皆さんはこの〇の中にどんな一文字を思い浮かべますか。

「今さら」と思った人： 高校生活は2年生はあと1年しかない、1年生はあと2年しかないと考えたと「もう、今さら」という投げやりで、諦めかけた後ろ向きの気持ちになります。

「今から」と思った人： 高校生活まだ、1年あるいは、2年あるぞと捉えれば、「さあ、今から」という希望、期待、来年度にける新たな目標も見えてきます。

「今なら」と思った人： 邇摩高校で2年あるいは1年学んだ今なら決意、勇気、行動、一步踏み出す意思のある言葉になります。

「今さら」と諦めるか、「今から」と決断するか、「今なら」と行動するか、今の皆さんの心にはどの今があるでしょう。どうせ心に思うなら、プラスの言葉を思い浮かべて欲しいです。4月からそれぞれ進級します。一人一人が「今から」「今なら」の気持ちを抱くにはよい時期だと思います。皆さんは着実に成長しています。そして残された高校生活でさらに成長していきます。

それでは、邇摩高生の皆さん、自分を大切に、自分を信じ、自分に挑戦し、周りではなく自分に打ち克ち、強くなってください。そして人に対しては思いやりの気持ちを持って接してください。自分の言動については、その場の感情だけで行動するのではなく、自分の感情を自分でコントロールし、自分自身も周りの人も傷つけない判断力を身に付けてください。来年度の活躍を期待しています。